



運転教習
共通の目標

2019

コンテンツ

1 主題の目的	3
<hr/>	
2 共通の目的	4
コンピテンシーの目標	4
学年ごとの共通の目標	
3年生以降	5
6年生以降	5
9年生以降	5
専門分野ごとの共通目標	
交通行動	6
事故管理	6

1 主題の目的

交通教育では、学生は自分自身や他人に危険を及ぼすことなく、安全かつ責任を持って交通運転を行うスキルを身につけ、交通事故が発生した場合に応急処置ができるようにする必要があります。

PCS。 2.交通状況での運転に関する知識と経験を通じて、生徒は、交通状況での自分の行動が、行動の選択肢を与えると同時に、自分自身や他の道路利用者の動きに制限を設ける状況の一部であることを学ばなければなりません。応急処置の知識と技術を通じて、学生は交通事故に関連した支援ができなければなりません。

PCS。 3.交通教育において、学生は、運転に関して、また応急処置が必要な事故が発生した場合の交通における共同責任と義務を理解する、注意力があり責任ある道路利用者にならなければなりません。

2 共通の目的

学生が安全に移動できる

学生が安全に移動でき

コンピテンシーの目標

専門分野	3年生以降	6年生以降	9年生以降
交通行動	受講者は、地元地域の交通を安全に移動することができる。	交通の中で安全に移動できる。	教習生は交通の中で安全かつ責任ある運転ができる。
事故管理	生徒は学校の敷地内で怪我をしたときの手助けをすることができます。	学生は交通事故で怪我をした場合に応急処置を行うことができます。	学生は、交通事故で怪我をした場合に、救命のための応急処置を行うことができます。

学年ごとの共通の目標

3年生以降

専門分野	能力目標	フェーズ	スキルと知識の分野と目標									
交通行動	学生は地元の交通渋滞の中でも安全に移動できます。		交通規則		独自のセキュリティ		他の道路利用者		安全なルート		自転車でも安全	
		1.	学生は、交通ルールに従って、交通渋滞の中で一人で歩いて移動することができます。	学生は次の知識を持っています 歩行者の交通ルール。	学生は交通事故の際に自分の身を守ることができます。	学生は次の知識を持っています 日や季節に合わせて調整された交通安全装置。	学生は他の人を読むことができます 道路利用者。	学生は道路利用者とその信号についての知識を持っています。	学生は歩行者にとって安全なルートを選択できます。	学生は次の知識を持っています 歩行者にとって安全なルートの特徴。	生徒は基本的な交通ルールに従って、閉鎖されたエリア内で自転車を操作することができます。	学生は自転車に乗るための基本的な交通ルールの知識を持っています。
		2.										
		3.										
		4.										
事故処理	生徒は学校の敷地内で怪我をしたときの助けをすることができます。		安全を創造する		傷害の評価		助けを呼びます		応急処置			
		1.	学生は、学校敷地内での事故で負傷した人に対して保険を掛けることができます。	学生は次の知識を持っています 校庭での負傷者の保護。	学生は負傷者の意識があるかどうかを確認できます。	学生は無意識の特徴についての知識を持っています。	生徒は大人に助けを求めることができます。	生徒は助けを求める方法についての知識を持っています。	学生は負傷者を安定した側臥位に置き、切り傷や擦り傷を治療することができます。	学生は次の知識を持っています 安定した横向き寝と軽傷の治療。		
		2.										
		3.										
		4.										

6年生以降

専門分野	能力目標	フェーズ	スキルと知識の分野と目標								
交通行動	学生は交通渋滞の中でも安全に移動できます。		交通規則		独自のセキュリティ		交通中のインタラクション		安全なルート		
		1.	生徒は交通ルールに従って、交通渋滞中を一人で自転車で乗ることができます。	学生は自転車の交通ルールについての知識を持っています。	生徒は渋滞の中でも注意して運転することができます。	学生は交通における注意をそらすものについての知識を持っています。	生徒は交通状況を予測し、それに応じて動きを調整することができます。	学生は、他のタイプの道路利用者に伴うリスクについての知識を持っています。	学生は自転車に乗る人にとって安全なルートを選択できます。	学生は自転車に乗る人にとって安全なルートの特徴についての知識を持っています。	
		2.									
		3.									
事故処理	学生は交通事故で怪我をした場合に応急処置を行うことができます。		安全を創造する		死傷者の評価		助けを呼びます		応急処置		
		1.	学生は負傷者の確保ができる交通量の少ないエリアで交通を止めることによって。	この学生は軽度の交通事故で負傷者を保護する知識を持っています。 覆われたエリア。	学生は負傷者の呼吸を評価し、自由な気道を確保することができます。	学生は通常の呼吸の特徴についての知識を持っています。	学生は緊急電話をかけることができ、名前、事故の場所、事件の内容を伝えます。	学生は緊急通報に必要な情報についての知識を持っています。	学生は脳震盪や骨折の治療を手伝うことができます。	学生は脳震盪の症状と骨折の安定化についての知識を持っています。	
		2.									
		3.									

9年生以降

専門分野	能力目標	フェーズ	スキルと知識の分野と目標								
交通行動	生徒は交通渋滞の中でも安全かつ責任を持って運転することができます。		交通規則		独自のセキュリティ		責任		結果の計算		
		1.	学生は、交通ルールに従い、他の道路利用者を考慮して交通状況を走行することができます。	学生は他の道路利用者との交流を通じて交通ルールの知識を身につけます。	学生は交通事故で怪我をするリスクを減らすことができます。	学生は交通における危険因子についての知識を持っています。	学生は交通渋滞の中で責任を持って運転することができます。	学生は交通における責任についての知識を持っています。	学生は、交通中の行動によって起こり得る結果を評価できます。	学生は、交通中の行動によって起こり得る結果についての知識を持っています。	
		2.									
		3.									
事故処理	学生は、交通事故で怪我をした場合に、救命のための応急処置を行うことができます。		安全を創造する		傷害の評価		助けを呼びます		応急処置		
		1.	生徒は緊急避難を利用して負傷者を確保することができます。	学生は緊急避難の実行に関する知識を持っています。	学生は負傷者の心血管機能を評価できます。	学生は循環不全の特徴についての知識を持っています。	学生は事故の状況に応じて助けを求めることができます。	学生は専門家の助けを必要とする知識を持っています。	学生は心臓蘇生法と生命を脅かす出血を止める技術を実演することができます。	学生は救命救急の知識を持っています。	
		2.									
		3.									

■ 共通の目標における拘束力のあるフレームワーク
 ■ 示唆的なスキルと知識の目標

専門分野ごとの共通目標

交通行動

学年		能力目標の段階		スキルと知識の分野と目標								
3年生以降	学生は地域の交通渋滞の中でも安全に移動できます。	交通規則		独自のセキュリティ		他の道路利用者		安全なルート		自転車でも安全		
		1.	学生は、交通ルールに従って、交通渋滞の中で一人で歩いて移動することができます。	学生は次の知識を持っています 歩行者の交通ルール。	学生は交通事故の際に自分の身を守ることができます。	学生は次の知識を持っています それに応じて調整された交通安全装置 日と季節。	学生は読むことができます 他の道路利用者。	学生は道路利用者とその信号についての知識を持っています。	学生は歩行者にとって安全なルートを選択できます。	学生は次の知識を持っています 歩行者にとって安全なルートの特徴。	生徒は基本的な交通ルールに従って、閉鎖されたエリア内で自転車を操作することができます。	学生は自転車に乗るための基本的な交通ルールの知識を持っています。
		2.										
		3.										
6年生以降	学生は交通渋滞の中でも安全に移動できます。	交通規則		独自のセキュリティ		交通中のインタラクション		安全なルート				
		1.	生徒は交通ルールに従って、交通渋滞の中で一人で自転車に乗ることができます。	学生は次の知識を持っています 自転車に乗る人の交通ルール。	生徒は渋滞の中でも注意して運転することができます。	学生は交通における注意をそらすものについての知識を持っています。	生徒は予測できる交通状況に応じて動きを調整します。	学生は、他のタイプの道路利用者に伴うリスクについての知識を持っています。	学生は自転車に乗る人にとって安全なルートを選択できます。	学生は次の知識を持っています 自転車利用者にとって安全なルートの特徴。		
		2.										
		3.										
9年生以降	生徒は交通渋滞の中でも安全かつ責任を持って運転することができます。	交通規則		独自のセキュリティ		責任		結果の計算				
		1.	学生は、交通ルールに従い、他の道路利用者に配慮して交通走行することができます。	学生は他の道路利用者との交流を通じて交通ルールの知識を身につけます。	学生は交通事故で怪我をするリスクを減らすことができます。	学生は交通における危険因子についての知識を持っています。	学生は交通渋滞の中で責任を持って運転することができます。	学生は交通における責任についての知識を持っています。	学生は、交通中の行動によって起こり得る結果を評価できます。	学生は、交通中の行動によって起こり得る結果についての知識を持っています。		
		2.										
		3.										

事故管理

学年		能力目標の段階		スキルと知識の分野と目標								
3年生以降	生徒は学校の敷地内で怪我をしたときの手助けをすることができます。	安全を創造する		傷害の評価		助けを呼びます		応急処置				
		1.	学生は、学校敷地内での事故で負傷した人に対して保険を掛けることができます。	学生は次の知識を持っています 学校敷地内での負傷者の保護。	学生は負傷者の意識があるかどうかを確認できます。	学生は意識の緩みの特徴についての知識を持っています。	生徒は大人に助けを求めることができます。	生徒は助けを求める方法についての知識を持っています。	学生は負傷者を厩舎に入れることができる 横向きにして衝撃や引っかき傷を治療します。	学生は次の知識を持っています 安定した横向き寝と軽傷の治療。		
		2.										
		3.										
6年生以降	学生は交通事故で怪我をした場合に応急処置を行うことができます。	安全を創造する		死傷者の評価		助けを呼びます		応急処置				
		1.	学生は交通量の少ない場所で交通を停止することで負傷者を保護できます。	この学生は、交通量の少ない場所で負傷者を保護する知識を持っています。	学生は負傷者の呼吸を評価し、自由な気道を確保することができます。	学生は通常の呼吸の特徴についての知識を持っています。	学生は緊急電話をかけることができ、名前、事故の場所、事件の内容を伝えます。	学生は緊急通報に必要な情報についての知識を持っています。	学生は脳震盪や骨折の治療を手伝うことができます。	学生は脳震盪の症状と骨折の安定化についての知識を持っています。		
		2.										
		3.										
9年生以降	学生はできる交通事故で負傷した場合に、人命を救う応急処置を提供します。	安全を創造する		傷害の評価		助けを呼びます		応急処置				
		1.	生徒は緊急避難を利用して負傷者を確保することができます。	学生は緊急避難の実行に関する知識を持っています。	学生は負傷者の心血管機能を評価できます。	学生は回路障害の特徴についての知識を持っています。	学生は事故の状況に応じて助けを求めることができます。	学生は専門家の助けを必要とする知識を持っています。	学生は、心肺蘇生法と生命を脅かす出血を止める技術を実演することができます。	学生は救命救急の知識を持っています。		
		2.										
		3.										

■ 共通の目標における拘束力のあるフレームワーク ■ 示唆的なスキルと知識の目標

運転レッスン - 共通の目的

2019

デザイン :BGRAPHIC

この出版物は注文できません。

Web版を参考にさせていただきました。

この出版物は、www.emu.dkからダウンロードできます。

児童教育省

教育と品質委員会

フレデリクスホルムのチャンネル 26

1220 コペンハーゲン K



BØRNE- OG
UNDERVISNINGSMINISTERIET

